

IV 鳥取県でのカラマツ育苗・植栽技術の確立

(実施期間：令和元年度～4年度 予算区分：県単 担当：池本省吾)

1 目的

カラマツは初期成長が早く、材の強度に優れることなどから本県の新たな造林樹種として県内で注目されている。本来カラマツは信州以北の主要な造林樹種であるため、本県に適した育苗及び植栽技術を確立することを目的とする。

2 実施概要

(1) 方法

カラマツを植栽する際の基礎資料とするため、標高別（鳥取市国府町岡益試験地 標高100m 前生樹マツ、鳥取市高路試験地 標高307m 前生樹マツ、日南町霞試験地 標高442m 前生樹スギ）に設けた県内3カ所のカラマツ植栽試験地について、植栽後から4成長期終了後までの樹高及び地際直径を調査した。

(2) 結果

カラマツ植栽木の4成長期後の樹高の平均は、試験地によりばらつき(109.7cm～293.4cm)、標高442mの日南試験地が最もよい成長を示した(図1)。地際直径の平均は、試験地によりばらつき(19.5mm～41.2mm)、標高442mの日南試験地が最もよい成長を示した(図2)。

4成長期後の生存率は、日南試験地83.3%、岡益試験地76.1%、高路試験地75.0%で、日南試験地はイノシシ等の獣害、岡益及び高路試験地は雑草の被圧による枯損がみられた。

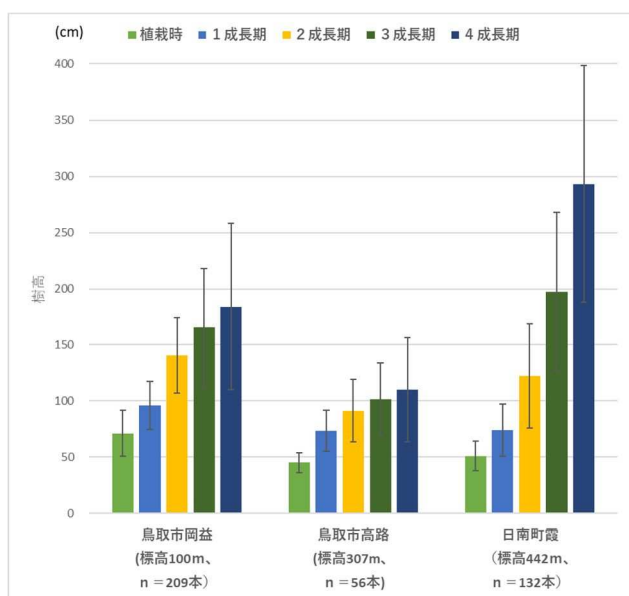


図1 標高別カラマツの樹高成長経過

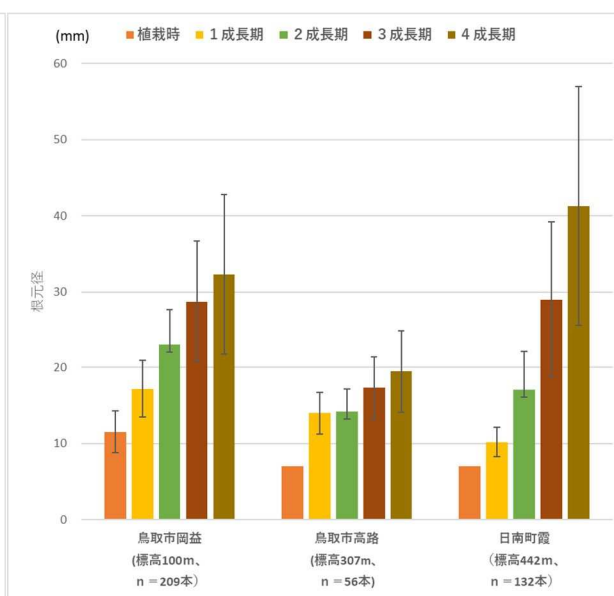


図2 標高別カラマツの地際直径成長経過